

まつかわ 松川流路工整備事業

受賞機関 国土交通省北陸地方整備局松本砂防事務所

はじめに

松川は長野・富山の両県境となる3,000m級の雄大な山並みが続く白馬連峰の白馬岳、唐松岳を水源とし、多量な土砂流出を伴って広大な扇状地を形成している。このため過去幾多の土砂災害が発生し、白馬村に脅威を与えてきた。

また、一方で白馬の雄大な山岳や澄みきった水と緑の溪流、そして様々な動植物が生息する自然環境を求め、四季を通じ多くの人々がこの地を訪れる。

松川流路工整備事業は、人々の暮らしを土砂災害から守るため計画し、河床の安定と流向規制を図るため昭和63年に工事着手し、平成14年に概成した。

事業の概要

流域面積：58.2km²

計画対象流量：1/100年確率 920m³/sec

現河床勾配：1/32～1/37

計画河床勾配：1/40～1/65

流路工延長：4,550m

主要施設：床固工16基 護岸工6,430m
帯工9基（右）3,300m
（左）3,130m

事業期間：昭和63年度～平成14年度



全景

事業の特徴

松川流路工整備事業は、平成2年度北陸地方建設局（現北陸地方整備局）の景観モデル事業に認定され、景観検討委員会の提言を受けながら床固工群と自然環境の保全の両立をめざし、景観・親水性・生



高水敷の利用状況

態系等へ配慮した河川整備に地域と一体となり積極的に取り組んできた。

整備にあたっては、

河川内には、みお筋・瀬・淵をできるかぎり自然のまま残す。

護岸工は河床にある転石を利用した石積みの緩傾斜護岸とする。

床固工及び帯工の表面は転石張りとし、各床固工にはイワナを中心とした魚類に配慮して魚道を設置する。

河川内に群生している河原グミ、ケショウヤナギ等の河川特有の植生はできるかぎり保存する。等の基本方針により実施した。

竣工前の平成7年7月松川流域は、過去最大の出水を記録した。それは、昭和34年伊勢湾台風の通過で甚大な被害が発生した時の約3倍にもおよぶ連続雨量で601mmに達した。しかし、この時、砂防堰堤や床固工群などの整備が進められていたことにより、昭和34年災害時には流出家屋・浸水家屋が114戸もあったものが、平成7年出水時には家屋被害は発生しなかった。

また、砂防施設の整備に伴い安全となった流域に学校などの公共施設や住宅等の土地利用が拡大し、高水敷整備を実施した空間を利用し毎年各種イベントが開催されている。

受賞賛助会員 あすなる建設(株)新潟営業所、大木建設(株)東京土木支店、佐田建設(株)北陸支店、大日本土木(株)北陸支店、(株)地崎工業東京支店